

株式会社レゾロジック

Flex API 仕様書

Edition Flex Application Program Interface

RESOLOGIC

2012/04/10

内容

1	呼び出し機能 (API) 一覧	2
1.1	Get	2
1.2	Post	2
1.3	Flex の存在確認	2
1.4	編集開始 (編集画面無しの場合も同様)	2
1.5	Flex が保存している編集結果の取得と削除	5
1.6	バックグラウンド処理の API	8
2	各種テンプレート指定方法	10
3	編集パラメーター	11
4	結果取得パラメータ	18

1 呼び出し機能 (API) 一覧

1.1 Get

Web アプリケーションの URL の後に、/document/API を指定します。

`http://demo.reso.co.jp/flex/document/jpeg?flexId=xxxxxxx&rasterDpi=50&pageList=1`

1.2 Post

Web アプリケーションの URL の後に、/document/API を指定します。

```
<form method="post" action="http://demo.reso.co.jp/flex/document/layout">
  <input type="hidden" name="relayUserId " value="xxxx">
  :
  <input type="hidden" name="srcType" value="flexScript">
  <textarea name="flexScript">page</textarea>
  :
</form>
```

1.3 Flex の存在確認

API :

alive

説明 :

flex の生存確認をします。

生存していれば、"alive" という文字列が返ります。

この API は呼び出し後にセッションを破棄します。

パラメータ :

なし

1.4 編集開始 (編集画面無しの場合も同様)

API :

Layout

説明 :

テンプレートを指定して、編集を開始します。

パラメータ :

認証 :

relayUserId : 連携ログイン用ユーザ ID

dtime : 連携ログイン日時

clientId : 連携ログインクライアント ID

呼び出し画面：

prepareName：編集開始画面ページ名（呼び出し画面）

結果：

resultType：連携ログイン結果取得タイプ

resultName：編集終了画面ページ名（戻り画面）

returnUserId：呼び出し元に戻る場合の連携ログイン用ユーザ ID(省略時は relayUserId と同じ)

returnURL：連携ログイン後の戻り URL

errorURL：エラー時の戻り URL

編集対象：

srcType：テンプレート指定方法

└ "trackingId"：テンプレートプロバイダのテンプレート識別コード

└ "templateName"：テンプレートプロバイダのテンプレート名称

└ "flexScript"：flexScript で指定

└ "remotefile"：URL で lla ファイルを指定

trackingId：srcType が "trackingId" の場合のテンプレート識別コード

templateName：srcType が "templateName" の場合のテンプレート名

flexScript：srcType が "flexScript" の場合のページ定義

remotefile：srcType が "remotefile" の場合の URL

└remoteUser：remotefile の Basic 認証 ID

└remotePasswd：remotefile の Basic 認証パスワード

編集画面：

editorType：編集タイプ

purposeName：編集画面の用途

pagePurposeNames：ページ毎の用途（カンマ区切り）

pageNo：編集開始ページ

pageSaveURL：編集画面で「保存」された場合の通知先

pageSaveMode：pageSaveURL が指定された場合の通知方法

その他オプション：

layoutId：編集画面呼び出し時の ID（任意）

checkMaterial : 素材・カセットの存在チェック
InjectionData : 差し込みデータ
editScript : 編集スクリプト
enableIncludedEditScript : テンプレート同梱スクリプトの実行フラグ
editorLaml : editor.laml(テンプレートの editor.laml よりも優先します)

API :

layoutAgain

説明 :

編集画面終了後、編集画面に戻る際に呼び出します。

セッション中でのみ利用可能です。

パラメータ :

なし

API :

Upload

説明 :

テンプレートをアップロードして、編集を開始します。

予め **relay** でセッションを開始しておく必要があります。

Web アプリケーションから **upload** したテンプレートを、

ユーザが編集することはできませんので、

upload の利用はユーザがブラウザからアップロードする場合に限定されます。

パラメータ :

ResultType : 連携ログイン結果取得タイプ

resultName : 編集終了画面ページ名

returnURL : 連携ログイン後の戻り URL

errorURL : エラー時の戻り URL

editorType : 編集タイプ

purposeName : 編集画面の用途

pagePurposeNames : ページ毎の用途(カンマ区切り)

resourcefile : ファイルアップロードのパラメータ名

1.5 Flex が保存している編集結果の取得と削除

API :

relay

説明 :

download, pdf, jpeg, remove, upload を呼び出す際に、
予めログインしておく為に呼び出します。

Edition Flex に連携ログインし、セッションを開始します

パラメータ :

認証 :

relayUserId : 連携ログイン用ユーザ ID

dtime : 連携ログイン日時

clientId : 連携ログインクライアント ID

結果 :

resultType : 連携ログイン結果取得タイプ

resultName : 編集終了画面ページ名 (戻り画面)

returnUserId : 呼び出し元に戻る場合の連携ログイン用ユーザ ID(省略時は **relayUserId** と同じ)

returnURL : 連携ログイン後の戻り URL

API :

download

説明 :

編集結果を **.lla** ファイルでダウンロードします。

パラメータ :

対象 :

flexId : 編集結果を示す ID

API :

pdf

説明 :

編集結果を PDF ファイルでダウンロードします。

ただし、**background=true** を指定した場合には、バックグラウンド処理情報を返します。

バックグラウンド処理は、`queueId` を指定して、`bgprogress` (進捗) / `bgabort` (中断) / `bgdownload` (結果取得) の API を利用して、操作します。

10 分以内に処理が完了しない場合には、処理継続のために `bgprogress` を呼び出してください。

パラメータ :

対象 :

`flexId` : 編集結果を示す ID

オプション :

`highResolution` : 高解像度指定 ON/OFF

`sampleMark` : 見本マーク ON/OFF

`sampleMarkStr` : 見本マーク文字列

`sampleMarkTrackingId` : 見本マーク素材識別コード

`trimMargine` : 余白トリミング ON/OFF

`checkFont` : フォントチェック ON/OFF

`pdfVersion` : PDF バージョン

`cmyk` : CMYK 出力 ON/OFF

`cmykJpegMode` : CMYK 出力時の JPEG 画像のモード

`pdfMasterPassword` : PDF のマスターパスワード

`pdfUserPassword` : PDF のユーザパスワード

`pdfPermissions` : PDF の制限

`background` : バックグラウンド処理を開始 true/false

結果(`background=true` の場合) :

`queueId` : バックグラウンド処理識別子

`documentName` : ドキュメント名

API :

`jpeg`

説明 :

編集結果を JPEG ファイルでダウンロードします。

ただし、`background=true` を指定した場合には、バックグラウンド処理情報を返します。

バックグラウンド処理は、`queueId` を指定して、`bgprogress` (進捗) / `bgabort` (中断) / `bgdownload` (結果取得) の API を利用して、操作します。

10分以内に処理が完了しない場合には、処理継続のために `bgprogress` を呼び出してください。

パラメータ :

対象 :

`flexId` : 編集結果を示す ID

オプション :

`highResolution` : 高解像度指定 ON/OFF

`sampleMark` : 見本マーク ON/OFF

`sampleMarkStr` : 見本マーク文字列

`sampleMarkTrackingId` : 見本マーク素材識別コード

`trimMargine` : 余白トリミング ON/OFF

`checkFont` : フォントチェック ON/OFF

`rasterDpi` : JPEG の DPI(Dot Per Inchi)

`rasterPxSize` : JPEG の最大サイズ

`rasterSmoothing` : スムージング ON/OFF

`background` : バックグラウンド処理を開始 true/false

結果(`background=true` の場合) :

`queueId` : バックグラウンド処理識別子

`documentName` : ドキュメント名

`flexId` : 編集結果を示す ID

API :

`remove`

説明 :

`flexId` : 編集結果を示す ID

編集結果を削除します。

一定時間アクセスが無い場合も自動削除されますが、

明示的に削除する場合に利用します。

パラメータ :

対象 :

`flexId` : 編集結果を示す ID

1.6 バックグラウンド処理の API

API :

bgprogress

説明 :

バックグラウンド処理の状況を取得します。

バックグラウンド処理は、10分（デフォルト）で、タイムアウト停止しますので、それ以上処理を継続する場合は、時間内に **bgprogress** を定期的呼び出して下さい。

パラメータ :

対象 :

queueId : バックグラウンド処理を示す ID

結果 :

status : 処理状態(**queued** | **started** | **stopped** | **abortRequested**)

statusString : 処理状態文字列(実行待 | 実行中 | 実行完了 | 中断処理中)

result : 処理結果(**success** | **error** | **aborted**)

extra : 処理結果付加情報(文字列)

API :

bgabor

説明 :

バックグラウンド処理の中断を指示します。

バックグラウンド処理の都合上、即時ではなく、直近の停止可能タイミングでの停止となります。

パラメータ :

対象 :

queueId : バックグラウンド処理を示す ID

結果 :

abortresult : 中断依頼結果(**abortRequested** | **invalidStatus**) **status** : 処理状態(**queued** | **started** | **stopped** | **abortRequested**)

statusString : 処理状態文字列(実行待 | 実行中 | 実行完了 | 中断処理中)

result : 処理結果(**success** | **error** | **aborted**)

extra : 処理結果付加情報(文字列)

API :

`bgdownload`

説明 :

バックグラウンド処理結果を取得します。

パラメータ :

対象 :

`queueId` : バックグラウンド処理を示す ID

結果 :

バックグラウンド処理が正常に終了していた場合には、バックグラウンド処理ではない場合と同じデータをダウンロードします。

バックグラウンド処理が終了していない場合には、「400 Bad Request」を返します。

`bgprogress` にて状況を確認してから処理結果を取得してください。

2 各種テンプレート指定方法

以下のいずれかの方法でテンプレートを指定します。

指定方法	srcType	説明	テンプレート指定パラメータ
識別コード指定	trackingId	テンプレートプロバイダに登録済みのテンプレートを、識別コードで指定します。	trackingId : テンプレートの識別コード
テンプレート名称指定	templateName	テンプレートプロバイダに登録済みのテンプレートを、名称で指定します。	templateName : テンプレート名
URL 指定	remotefile	Edition Flex からアクセス可能な URL でテンプレートの lla ファイルを指定します。	remotefile : URL
			remoteUser : Basci/Digest 認証ユーザ ID
			remotePasswd : Basci/Digest 認証パスワード
Flex スクリプト指定	flexScript	Flex スクリプトでテンプレートを指定します。	flexScript : Flex スクリプト
アップロード	resourcefile	テンプレート (.lla ファイル) をアップロードします。	resourcefile : テンプレートファイル

3 編集パラメーター

layout / upload API で編集を開始する際に指定するパラメータです

パラメータ	: relayUserId
項目	: 編集時のユーザ ID
必須	: 必須
説明	: 編集時のユーザ ID を指定します
値もしくは例	: editOnly
補足	: Flex の利用アカウントを指定してください
パラメータ	: dtime
項目	: ログイン情報を生成した時刻
必須	: 必須
説明	: ログイン情報を生成した時刻を RFC1123 形式で指定します
値もしくは例	: Fri, 12 Nov 2010 08:28:00 GMT
補足	: flex 呼び出し時に生成してください。 認証情報有効期間が、0 以外に設定されている場合、有効期間の範囲外では呼び出しエラーとなります
パラメータ	: clientId
項目	: 呼び出し元の正当性を示す ID
必須	: 必須
説明	: dtime と共通鍵を連結した文字列の MD5 の値を指定します
値もしくは例	: 32Byte の半角英数字
補足	: 共通鍵は、Flex アカウント毎に設定されています
パラメータ	: flexId
項目	: 編集結果を示す ID
必須	: 省略可
説明	: download, pdf, jpeg, remove で対象を指定します
値もしくは例	: 35Byte の半角英数字
補足	: layout API 呼び出しからの戻り時に取得できます

パラメータ	resultType
項目	結果表示方法
必須	省略可
説明	編集終了時やエラー時などの結果表示方法を指定します
値もしくは例	“html”:標準で用意されている画面を表示します “text”:テキストで返します
補足	無指定または、“text”以外を指定した場合は、“html”指定となります text 指定時に返る文字列の内容 1 行目:ステータス 2 行目:flexId 3 行目:メッセージ
パラメータ	resultName
項目	編集終了画面ページ名
必須	省略可
説明	編集終了時やエラー時などに表示する戻り画面を指定します
値もしくは例	連携ユーザにてログインし、個人設定から戻り画面を作成してください
補足	無指定または、戻り画面が存在しない場合は、デフォルトの編集終了画面を表示します resultType が“html”以外の場合には無視します
パラメータ	pageNo
項目	編集開始ページ番号
必須	省略可
説明	編集開始時に表示するページ番号を指定します
値もしくは例	最初のページが1です
補足	省略時には1ページ目を表示します
パラメータ	pageSaveURL
項目	ページ「保存」時通知先
必須	省略可
説明	指定された場合に、ページ保存時に呼び出します
値もしくは例	http://host.domain/directory?param=value¶m2=value2
補足	URL に GET パラメータを含められます 通知内容は、pageSaveMode によります

パラメータ	pageSaveMode
項目	pageSaveURL への通知内容
必須	省略可
説明	pageSaveURL へ通知する内容を指定します
値もしくは例	“svg”: 保存されたページの SVG のみ “lla”: 編集中心ドキュメント全体の lla
補足	省略時には“svg”です。
パラメータ	returnUserId
項目	呼び出し元に戻る場合の連携ログイン用ユーザ ID
必須	省略可
説明	編集時のユーザ ID を指定します
値もしくは例	
補足	省略時は relayUserId と同じ値とします
パラメータ	returnURL
項目	戻り先 URL
必須	省略可
説明	編集終了時に戻る URL を指定します 編集結果をダウンロードするための ID を付加して呼び出します
値もしくは例	http://...
補足	指定しない場合は編集終了時に閉じるボタンのみの画面を表示します
パラメータ	errorURL
項目	エラー発生時戻り先 URL
必須	省略可
説明	エラー発生時時に戻る URL を指定します
値もしくは例	http://...
補足	指定しない場合は戻り先 URL に戻ります
パラメータ	editorType
項目	エディタの形式
必須	省略可
説明	エディタの形式を選択します
値もしくは例	general(編集画面あり) injection(編集画面なし) none(編集画面も差込処理も無し)
補足	指定しない場合は「general」を指定したものとします

パラメータ	: purposeName
項目	: 用途
必須	: 省略可
説明	: 編集時の設定を選択します 編集設定ファイルの purpose と合わせてください
値もしくは例	: user designer
補足	: 指定しない場合は「user」を指定したものとします
パラメータ	: pagePurposeNames
項目	: ページ毎の用途
必須	: 省略可
説明	: ページ切り替え時の用途をカンマ区切りで指定します 定義されている場合はその用途に切り替わります
値もしくは例	: user,user2...
補足	: 指定しない場合はページ切り替え時に用途は切り替わりません
パラメータ	: layoutId
項目	: 編集 ID
必須	: 省略可
説明	: 編集画面呼び出し時に呼び出し側で設定する識別 ID です
値もしくは例	: 呼び出し側アプリユーザ ID など
補足	: 素材プロバイダの基準パスの中で\${layoutId}として指定できます
パラメータ	: checkMaterial
項目	: 素材チェック
必須	: 省略可
説明	: 素材・カセットの存在チェックをします プロバイダから提供される素材が取得可能かどうかをチェックします 取得できない場合は編集を開始しません
値もしくは例	: true false
補足	: 指定しない場合は「false」を指定したものとします
パラメータ	: injectionData
項目	: 差し込みデータ
必須	: 省略可
説明	: ラベル指定で、テキストパーツの文字列、イメージパーツの trackingId を指定します
値もしくは例	: ラベル 1[タブ]値 1 ラベル 2[タブ]値 2
補足	: LAML 形式(1階層)

パラメータ	editScript
項目	編集スクリプト
必須	省略可
説明	スクリプトでの編集処理を指定します
値もしくは例	別途資料参照
補足	groovy スクリプト形式
パラメータ	enableIncludedEditScript
項目	テンプレート同梱スクリプト実行フラグ
必須	省略可 true が指定されている場合、テンプレート同梱スクリプトがあれば実行します
説明	editScript パラメータが指定されている場合、それと結合されて実行されます
値もしくは例	true false
補足	指定しない場合は「false」を指定したものとします
パラメータ	srcType
項目	種別
必須	必須
説明	編集の元データとするテンプレートの指定方法を表します
値もしくは例	trackingId templateName resourcefile remotefile flexScript
補足	trackingId:識別コード templateName:テンプレート名 resourcefile:.lla/.zip ファイルをアップロード remotefile:指定した URL からテンプレートをダウンロード flexScript:Flex スクリプト指定
パラメータ	trackingId
項目	識別コード
必須	srcType=trackingId の場合に必須
説明	編集の元にするテンプレートを指定します
値もしくは例	
補足	存在しない場合はエラー画面を表示します

パラメータ	: templateName
項目	: テンプレート名
必須	: srcType=templateName の場合に必須
説明	: 編集の元にするテンプレートを指定します
値もしくは例	:
補足	: 存在しない場合はエラー画面を表示します
パラメータ	: flexScript
項目	: Flex スクリプト
必須	: srcType=flexScript の場合に必須
説明	: 編集の元にするテンプレートを Flex スクリプトで指定します
値もしくは例	:
補足	: Flex スクリプトが正しくない場合はエラー画面を表示します
パラメータ	: remotefile
項目	: テンプレートを取得する URL
必須	: srcType=remotefile の場合に必須
説明	: 編集の元にするテンプレートを指定した URL から取得します
値もしくは例	:
補足	: 存在しない場合はエラー画面を表示します。
パラメータ	: remotefile
項目	: テンプレートを取得する URL
必須	: srcType=remotefile の場合に必須
説明	: 編集の元にするテンプレートを指定した URL から取得します
値もしくは例	:
補足	: 存在しない場合はエラー画面を表示します Java の KeyStore で信頼されていない場合(オレオレ証明書など)、接続時にエラーが発生します HTTPBuilder の SSL Configuration に従い証明書をインポートすれば使えるようになると思われませんが、 プログラム側で対応しなければなりません
パラメータ	: remoteUser
項目	: テンプレートを取得時のユーザ名
必須	: 省略可
説明	: srcType=remotefile の場合に指定可能です
値もしくは例	:
補足	: Basic/Digest 認証が必要な場合のユーザ名です

パラメータ	:	remotePasswd
項目	:	テンプレートを取得時のパスワード
必須	:	省略可
説明	:	srcType=remotefile の場合に指定可能です
値もしくは例	:	
補足	:	Basic/Digest 認証が必要な場合のパスワードです

4 結果取得パラメータ

PDF / JPEG で、結果を取得する際に指定するパラメータです。

PDF/JPEG 共通設定

設定名	型	値	説明
pageList	String	1,2,3....	カンマ区切りで 1 からの、取得したいページ番号
highResolution	boolean	true false	高解像度
sampleMark	boolean	true false	見本マーク有無
sampleMarkStr	String		見本マーク文字列
sampleMarkTrackingId	String		見本マーク素材識別コード
trimMargin	boolean	true false	余白トリミング
checkFont	boolean	true false	フォントチェック

PDF 専用設定

設定名	型	値	説明
pdfVersion	String	1.3 1.4 1.5 ...	PDF バージョン(1.3 以上)
cmykJpegMode	String	"JPEG" / "RAW" / "Pass Through"	CMYK-JPEG-MODE
cmyk	boolean	true false	CMYK 出力(false の場合は RGB 出力)
bookmark	boolean	true false	ページ名を PDF のブックマークに設定する(デフォルトは true)
pdfMasterPassword	String		権限パスワード
pdfUserPassword	String		ユーザパスワード
pdfPermissions	String	noprint nomodify nocopy noannots	制限(複数ある時は、スペースで区切ります) マスターパスワード必須です
showLayer	String	1,2	表示するレイヤー番号(1~)を csv で指定
hideLayer	String	1,2	非表示にするレイヤー番号(1~)を csv で指定 (showLayer 指定時は無効)

pdfOverprintMode	String	"Off" / "CMYK" / "K100" / "K95"	オーバープリントモード指定
pdfx1a2001	boolean		PDF/X-1a:2001 準拠
pdfx1a2003	boolean		PDF/X-1a:2003 準拠
compress	int	0:無圧縮 1:スピード優先 6:バランス 9:サイズ優先	PDF 圧縮係数(0-9)
pdfx	String	"none" / "PDF/X-1a:2001" / "PDF/X-1a:2003" etc.	PDF/X 準拠レベル
outputintent	String	"JC200103" 他	PDF/X の出力インテント
Title	String	"no title"	文書のタイトル
Creator	String	"edition flex"	文書の作成に使用されたソフトウェア
Subject	String	"sub title"	文書のサブタイトル
Author	String	"author"	文書の作成者
Keywords	String	"sample leaf"	文書の内容を記述したキーワード
honoriccprofile	boolean	FALSE	画像内に埋め込まれている ICC カラープロファイルを適用(デフォルトは false=推奨値)
linearize	boolean		Web 用最適化
optimize	boolean		別工程で最適化

JPEG 専用設定

設定名	型	値	説明
rasterDpi	int	dpi	ラスター出力時の DPI
rasterPxSize	int	pixel	ラスター出力時の最大ピクセルサイズ
rasterSmoothing	boolean	true false	ラスター出力時のスムージング処理の有無

※各パラメータは、個別指定の他、LAML 形式にまとめて、`printSettings` というキーで一括指定することもできます。